



鶴の便り 鶴の便り

夕鶴の里資料館報
平成30年1月20日
第 85号
発行 夕鶴の里
TEL 47-5800

漆山小学校 出前語り部養成講座

昨年十二月に、漆山小学校四、五年生を対象に、出前語り部養成講座が開講しました。夕鶴の里自主事業実行委員会が講師となり、班に分かれて語りの練習をします。

一月十一日(木)に、第二回目の講座が行われました。冬休みを挟みましたが、各自ご家族の方に語りを聴いてもらったりして、練習を重ねてくれた様でした。前回の講座で講師の方に教えてもらった事をきちんと意識して語っていました。講座は残り一回。そのあとは、いよいよ発表です。



～開講式と語りの練習の様子～
講師も、生徒も楽しそうです。語りの勉強はおもしろいべ～。
最後の発表も楽しく、そして堂々と語ってくださいね！

～夕鶴の里にまたまた、台湾からの取材です！～

1月8日(月・祝)

みちのくおとぎ街道の魅力あるコンテンツを台湾のブログやFacebookで発信しPRする為に台湾人ブロガーが来館。中国語字幕付きの映像を使った語りと資料館見学、機織りでコースター作りを体験した。

民話口演や機織りは、なかなか出来る体験ではありません。多くの台湾の方に興味を持って頂き、夕鶴の里を訪れてほしいです。



お願い

貸館について

- ◇ 使用の際は事前に夕鶴の里へ使用申請書を提出してください。
- ◇ 電気・冷暖房は必ず消して下さい。トイレの便座の暖房も止めてください。
- ◇ 調理室の水道を利用した際は、必ず水抜きを行ってください。(凍結防止)
- ◇ 各調理台の洗い場のふたは、閉めないようにしてください。
- ◇ 使用時に出たゴミは、各自持ち帰って下さい。
- ◇ 使用後は必ず日誌に記入してください。
- ◇ 使用後の施設は間違わないように行ってください。

無断駐車はご遠慮下さい

積雪が多くなり、駐車場が狭くなっております。

無断駐車は除雪の妨げになりますので、ご遠慮ください。

やむを得ず駐車する場合は電話等で必ずご連絡下さいますようお願いいたします。

セツブーン

むがあし昔あったけど。
昔ある所さ とどさと、かがさと
いだけど。とどさも、かがさも
優しい人で、仲良く暮
らしていただけど。

ある時よ、とどさが腹痛お
ごしたど。「ああ、腹痛める。
困った、困った。かがさ、かが
さ、なじよ(どう)したらええ
べ」て聞いたど。そしたらかが
さ、「とどさ、薬、飲んだが」
って、言ったど。

「飲んだ、飲んだ。飲んだ
げんどさつぱり効がねがった
イテテテ、イテテテ」そしたら
かがさ「とどさ、お寺さ行っ
て 和尚様に聞いて「ござれ」
て言ったど。(昔はお医者様
より和尚様だったんだべ
が?)とどさは「イテテ、イテ
テ」て言いながらお寺さ走
って行ったど。

「和尚様、和尚様、腹痛めで
腹痛めでわがね。なじよし
たらええべ?」

「とどさ、薬のんだが?」
「飲んだ、飲んだ。飲んだげ
んど、さつぱり効がねがった。
イテテテ、イテテテ」

「んじやあ、虫、たがったがも
知んにえがら、とどさ、蛙で
も飲んだらなじよだ?」
「えっ?」て言いながら、とど

さ、蛙一匹つかまえて、ぺろっ
と飲んだど。

その蛙、喜んで腹の虫みな
退治してけつちやもんで、腹
病め、すかっとなおったど。

ほだげんども、こんどはその
蛙が腹の中でペタラクタラて
騒ぐなだど。

「あ…今度は蛙だ。ペタラク
タラて気持ち悪くて仕方が
ない。かがさ、かがさ、なじよ
したらええべ」

「お寺さ行って聞いて「ござれ」
和尚さま、和尚さま、腹痛
めは治ったげんど、こんどは
蛙がペタラクタラ、ペタラク
タラさわいで、気持ち悪くて
仕方がない。なじよしたらえ
がなべつす」

「そうか、蛙が…それではと
どさ、へび飲んだらなじよ
だ?」

とどさは道端でへび一匹捕ま
えてつるんと飲んだど。へび
はとどさの腹の中で蛙を飲ん
でしまったので一時蛙のペタ
ラクタラは止んだが、今度は、

蛇が腹の中でノラリクラーリ、
ノラリクラーリ。「かがさ、かが
さ。こんどはへびのノラリク
ラーリだ。なじよしたらえがなべ

「お寺さ行って聞いて「ござれ」
和尚さま、和尚さま、今度
はへびのノラリクラーリがたま
らない。なじよしたらえがなべ
つす」

「そうか、へびか、それならキ
ジを飲んだらなじよだ?」

お寺からの帰りに、とどさは
キジを一羽つかまえて丸のみ
した。腹の中で蛇をみつけた
キジはすぐにへびを退治して
くれたので、へびのノラリク
ラーリは止まったが、今度はキ
ジがケンケンパタパタ騒ぎ出
して大弱り。

「かがさ、かがさ。こんどはキ
ジだ。なじよしたらいいべ」お
寺さ行って聞いて「ござれ」

「和尚さま、和尚さま、キジ
が腹の中でケンケンパタパタ
とさわいで大困りです。なじ
よしたらえがなべつす」

「そうか、キジは狩人しかな
いな」

お寺の帰り、とどさの前を藁
笠つけた狩人が歩いていたの
で、とどさは「オイ」と声をか
けて振り向いたところを捕ま
え、ストーンと飲み込んだ。

腹の中でキジを見つけた狩
人はすぐに鉄砲でズドンとキ
ジを殺したので、ケンケンパ
タパタは止んだが、その後が
また大藁。藁はチクチク、鉄
砲の先が、あつちにゴツン、こ
つちに、ゴツン。

「かがさ、かがさ。なじよした
らええべ」

「お寺の和尚さまに聞いて「こ
ざれ」

「和尚さま、和尚さま、狩人

の鉄砲の先がぶつかって困り
ます。なじよしたらよがなべつ
す」

「狩人もだめか。それではと
どさ、鬼だな」

ちようど二月に入って、外で
は鬼どもが遊んでいたの、
とどさは、その一匹を捕ま
えて丸のみをしたど。腹の中の
鬼はすぐに狩人を静めたが

間もなく腹の中では鬼が暴
れだして二本の角があつちに
チクリこつちにチクリ…。

「かがさ、かがさ。なじよした
らええべ」

「お寺さ行って聞いて「ござれ」
和尚さま和尚さま、鬼、鬼
の角…」

「ああ鬼もダメか。とどさ、こ
つち来て口を開いてみる。あ
あ、ずいぶんあばれているな」
和尚さまは、今食べておられ
た、いり豆を大づかみにつか
んで、とどさの口から胃の方
にいる鬼めがけて「鬼は外!」
と投げ入れた。行き場のない
鬼だが出口を探して右往左
往しているうち、やっと尻の
穴を見つけ、「切ない、切ない、
セツブーン」と飛んでったそう
だ。

とうびんと。

